

令和5年度 西東京市立保谷第二小学校 学校関係者評価

■学校教育目標	「自ら伸びる」 ○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子
■目指す児童像	● 地域社会との協働により、それぞれの児童の教育ニーズに応じ、次代を担う市民を育む「社会の雛形」としての学校 ● 生涯にわたって心の拠り所となる「地域のふるさと」としての学校
■目指す学校像	● 知・徳・体の調和がとれ、自らの向上を図る「自ら伸びる」児童 ● 他者を尊重し、集団の中で積極的に自らの役割を果たそうとする児童
■目指す教師像	● 専門職としての使命感と誇りをもち、創意工夫に満ちた指導の充実に努め、子どもの心に灯をともしことのできる「プロフェッショナル」の教師
■学校経営上の成果と課題	[成果] 西東京市研究奨励校として、コミュニティ・スクールへの円滑な移行を果たし、複合単元「市民科」におけるリアルな地域課題を通して、児童の「学び方」「考え方」の学びを進めた。 [課題] 地域拠点の役割を果たすため、2軸「花」「安全・安心」を一層推進する必要がある。そのため、後者に関して、保護者や地域住民も参画する、かつてない「避難所開設訓練」を実現する。

関連 教育 目標	中期 経営 目標	短期経営目標	具体的方策	質問内容(教…教職員 児…児童 保…保護者)			教員の結果(%)					児童の結果(%)			保護者の結果(%)							
							A	B	C	D	対象外	A	B	無回答	A	B	C	D	不明			
よく考える児童の育成	教育効果の向上	基礎・基本の完全習得	朝学習でのモジュール型短時間学習により、基礎・基本事項の習得を継続的に図る。 ● 漢字 ● 計算 ● タイピング	①	教	朝学習を有効に用いて、計画的に基礎・基本の定着を図りましたか。	76.5	5.9	0.0	0.0	20	94.1	5.9	0.0	33.6	46.9	17.4	2.1	0.0			
					↑ 2.4		±0.0		↑ 2.4	↓ 0.9	↑ 1.4	↓ 0.5	↑ 1.7		↓ 1.7		±0.0					
					児	漢字(1年生はひらがな)や計算が、ドリルやテストでできるようになりましたか。	[状況]	● 週3回の朝学習を、漢字や計算の基礎・基本の習得に充て、全校規模の確認テストを通して定着を図りました。 ● 全国学習・学力状況調査における本校の平均は、全国平均を 15 ポイント超えており、着実に学力が伸びています。														
					保	家庭学習の中で、お子さんは、漢字や計算の基礎・基本ができていますか。	[取組]	● 15 分間の朝学習をモジュール型短時間学習として教育課程に位置付けて、計画的に基礎・基本を定着させてきた取組を継続するとともに、年3回の東京ベーシック・ドリル確認テストを校長が直接採点し、定着の進捗を管理します。														
		関係者評価	3.00 /3		[コメント]	● 取組により学力が伸び、児童・保護者とも成果を実感している。 ● 朝学習を継続的に実施することができ、学力が定着したのは、素晴らしいと思う。																
		各教科等を横断させたカリキュラムマネジメントの実施 [横系]	各教科等の指導内容を横断させ、教育効果を向上させる。 ● 言語活動の推進 ● 道徳科の充実	②	教	国語科の言語活動など、各教科等を横断した総合的な学びを進めましたか。	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	91.3	8.7	0.0	29.9	44.5	21.8	3.8	0.0			
					↑ 11.8		±0.0		↓ 11.8	↑ 2.8	↓ 2.8	±0.0	↑ 1.7		↓ 1.4		↓ 0.3					
					児	自分の考えを友達に話したり、友達の考えを参考にしたりできましたか。	[状況]	● 国語科で学ぶ言語活動(インタビュー・メモ・発表など)が、他の教科・領域における自立的な活動を支えています。 ● 「市民科」単元の開発を通して、児童が各教科等をまたいで問題解決を図る先進的な取組を推進しています。前期に続き、「生産・販売」「金融・経済」「起業・商品開発」など、現代的な諸課題に係るかつてない学びを実現しました。														
					保	お子さんは、コミュニケーションを通じて、考えを相手に伝えることができますか。	[取組]	● 「市民科」単元の開発を通して、それぞれの児童が各教科等をまたいで問題解決を図る先進的な取組を推進します。そのために、6 年間にわたる系統的な言語活動を通して、他者と関わりながら自ら学ぶ基盤を確立していきます。														
		関係者評価	3.00 /3		[コメント]	● 教職員全体での取組がなされている。 ● 「市民科」の単元開発と具体的な取組が、確実に成果につながっている。 ● 他に先駆けた素晴らしい取組で、素晴らしい。																
		各教科等を縦断させたカリキュラムマネジメントの実施 [縦系]	6年にわたる「課題改善カリキュラム」を進め、漢字や関数の系統的な理解を促す。 ● 漢字の意味 ● 図や表の活用	③	教	漢字や算数科の数量関係について、既習事項に基づく系統的な指導をしましたか。	86.7	0.0	0.0	0.0	13.3	91.3	8.7	0.0	25.4	54.0	17.7	1.8	1.1			
					↑ 4.3		±0.0		↓ 4.3	↑ 2.0	↓ 2.0	±0.0	↑ 5.0		↓ 4.7		↓ 0.3					
児	これまでに学習してきたことを、新しい学習に生かすことはできましたか。				[状況]	● 伝統的に苦手とされる算数科の「割合」を、図表を用いて、その数量関係を読み解く指導を、「課題改善カリキュラム」として具体化しました。少人数指導を通して系統的な指導が進み、図表の活用による根拠ある立式を支えています。																
保	お子さんは、過去に学習したことを、新たな学習に自ら生かすことができますか。				[取組]	● 漢字と割合の「課題改善カリキュラム」では、教科書を徹底活用し、参照すべきページを示し、「ターゲット問題」を選定して、反復学習できるよう図りました。来年度の教科書改訂に応じ、記載内容を全て改め、遅滞なく指導にあたります。																
関係者評価	2.86 /3		[コメント]	● 図表等、分かりやすさを意識した取組は、評価できる。																		
ギガスクール構想の具現化	個別最適化された学びの実現	● 家庭学習との連携 ● 情報モラル	④	教	教材の電子化も念頭に、タブレット端末の日常的な活用を図りましたか。	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	93.5	6.5	0.0	31.6	50.4	10.3	3.2	4.5				
				↑ 17.7		↓ 11.8		↓ 5.9	↑ 4.5	↓ 4.5	±0.0	↑ 0.9		↓ 2.8		↑ 1.9						
				児	きまりを守ってタブレットを使い、知らないことを調べたり、考えを伝えたりしましたか。	[状況]	● 自宅で事前に調べ、学校でその知見を集団検討に生かす「反転学習」が定着し、自立的な学習が進んでいます。 ● タブレット端末による外部機器の制御を全校児童が経験するとともに、ドローンやメタバースの導入を果たしました。															
保	子さんは、タブレット端末を、適切に学習活動に活用することができますか。	[取組]	● 前期学校評価を受け、タブレット端末など情報機器に係る情報モラルについて、道徳授業地区公開講座の機会に、踏み込んだ内容の講演会を開催しました。危機管理の視点から、家庭教育との連携・協働を図っていきます。																			

